

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小林製薬新研究所	階数	地下1F、地上5F
建設地	大阪府箕面市彩都粟生北	構造	SRC造
用途地域	第2種住居地域、法第22条区域	平均居住人員	960 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年2月14日
敷地面積	19,264 m <sup>2</sup>	作成者	毛利、堤
建築面積	6,360 m <sup>2</sup>	確認日	2024年3月4日
延床面積	33,189 m <sup>2</sup>	確認者	平岡



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 3.3</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み 67% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>③上記+②以外の 67% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>④上記+ 67% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したものです</p>	

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 3.6	Q2のスコア = 3.9	Q3のスコア = 3.7
音環境: 3.2, 温熱環境: 3.5, 光・視環境: 3.7, 空気質環境: 3.9	機能性: 4.3, 耐用性: 3.8, 対応性: 3.6	生物環境: 4.0, まちなみ: 4.0, 地域性: 3.0

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 4.6	LR2のスコア = 4.0	LR3のスコア = 3.6
建物外皮の: 4.8, 自然エネ: 4.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 4.0	水資源: 3.8, 非再生材料の: 4.3, 汚染物質: 3.3	地球温暖化: 4.3, 地域環境: 3.4, 周辺環境: 3.3

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>取まれた眺望の敷地で、研究者が業務内容や気分に合わせて自然とモードチェンジをし、最大限のパフォーマンスを発揮できるように考えた。また2つの軸をもつ折れ曲った平面により空間に動きを作ると同時に、山並みになじむ柔らかな印象の外観とした。研究室は3階のワルムの空間とすることで、コミュニケーションの生まれやすい環境を整えながら、他階にもアクセスしやすい構成としている。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>方位別、ベリメータ、インテリ別や内部負荷の分布などを考慮して空調ゾーニングをしている。</li> <li>熱負荷傾向が冷房暖房運転が混在する恐れのある系統は冷房フリー(冷暖同時運転可能)としている。</li> <li>昼光利用設備としてトップライトを採用している。</li> <li>昼光制御として、ブラインド、底効果有する外壁設計を採用している。</li> </ul>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主たる執務室には50W/m<sup>2</sup>のOAフロアを導入している。</li> <li>主たる執務室の天井は直天井とし、天井高2.9m以上確保している。</li> <li>維持管理を考慮した清掃用具保管場所、清掃用流しを適切に計画している。</li> <li>主要な配管の2種類に更新必要間隔等級Bの管材を使用しEは不採用。</li> <li>発電機による空調、換気のバックアップを採用している。</li> <li>中水利用、節水型器具を採用している。</li> </ul>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>BPlm: 0.82、BEIm: 0.57を達成している。</li> <li>BEMSを採用している。</li> </ul>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>節水型器具の採用。</li> <li>雨水を中水として外部散水、トレイ洗浄水に利用している。</li> </ul>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>光害対策ガイドラインのチェックリストの大半を満足している。</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	小林製薬新研究所					
	建設地	大阪府箕面市彩都粟生北					
	用途/区分	事務所 工場					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					S	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					4	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.3	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	4.0	4
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.8	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	4.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		